



第20号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」

編集クラブ



新たな一步を踏み出された皆さんに

園田学園女子大学

学長 川島 明子

本学は「地域と共に歩む大学」として生涯学習に取り組み、本年で40周年を迎えました。シニア専修コースは、平成14年に総合生涯学習センターに設置され、それぞれの場で社会に貢献された方々が「スタディ・ライフ・バランスを図る視点で学び、生涯輝き続ける」を実践しているコースとして発展し、現在、社会連携推進センターに引き継がれています。

シニア専修コースの重要な役割は、多くの積み重ねて来た知識と経験を、これまでとは異なる視点から再びとらえていただくこと、すなわち学び直しとその学びの継続にあります。そのために現在ではコースに3学科を設置し、基礎から専門知識までを学べる科目を設け、文部科学省が定める学校教育法に基づいた「履修証明書」の交付を行うなど、多くの方々に学びの機会を提供してきました。

さて、これからはますます信じられないほどの速さで技術革新が進み、私たちは世代を問わず、不確実で不透明な大きな変化の時代を生きていかなければなりません。それは、医療技術や通信技術（IT）の飛躍的進歩、第4次産業革命といわれるAIなどの技術革新そして経済のグローバルの激化といった私たちの住む社会構造そのものを変えてしまうような変化です。

このように不透明な社会の状況における複雑化した課題の解決には、すでに豊かな人生経験を持ったシニア世代と現役世代が人生のそれぞれの段階で学び続けること、さらに、そこで得た互いの知恵と各々の体力の協働によって、多様な人材が活躍できるダイバーシティを実現することが解決の糸口となると考えています。

ぜひ、新たな一步を踏み出された皆さんが本学で学び続けることにより、社会で協働し活躍する力となり、健康で豊かな人生を送られるための一助となるよう心より祈念しております。

目 次

新たな一步を踏み出された皆さんに・・・・	園田学園女子大学学長	川島 明子	P1
先生方からのメッセージ・・・・	講師の方々		P3
平成 30 年度シニア専修コース 卒業式・・・・	編集クラブ		P8
平成 30 年度 卒業生からのメッセージ・・・・	卒業生有志		P9
平成 31 年度シニア専修コース 入学式・・・・	編集クラブ		P11
文学歴史学科 新入生歓迎会・・・・	文歴 2 年	今西 俊英	P12
平成 31 年度 新入生誌上座談会・・・・	編集クラブ		P13
国際文化学科 卒業生を送る会・・・・	国際 2 年	美間総一郎	P15
情報学科 同窓会・・・・	情報卒業生	世話役一同	P16
文学歴史学科 9 期同期会 尼崎城見学・・・・	研究生	木下 俊造	P17
国際文化学科 14 期同期会 元気いっぱいハイキング	研究生	三木 静子	P17
人間を考える～夢の諸相～・・・・	編集クラブ		P18
国際文化研究「学習成果発表会」を終えて・・・・	研究生	井上 聖明	P19
青春 18 切符の旅・・・・	編集クラブ	河田かつのぶ	P20
百寺巡礼・・・・	文歴 2 年	田畑 芳彦	P21
パリ旅行・・・・	国際 1 年	十河 和夫	P23
民謡「あやぐ」が伝える宮古の歴史・・・・	研究生	松隈 美江	P25
国際文化学科 3 年の卒業アルバム・・・・	国際前 3 年	クラス委員	P26
「けやき便り」創刊のころ・・・・	研究生	中村米三郎	P27
『50 歳からの大学案内 関西編』・・・・	編集クラブ		P29
«ざっきちようから» 誤魔化す・・・・	研究生	金森扶美子	P30
読者の広場 [東山ひがし茶屋街]水彩画・・・・	文歴 3 年	山根 邦男	P31
美術鑑賞とグルメの会・・・・	国際 13 期	櫻井 秀也	P31
シニア専修コース クラブ紹介・・・・	編集クラブ		P32
社会連携推進センター生涯学習ユニットからのお知らせ			P36
「けやき便り」への投稿について・編集後記・・・・	編集クラブ		P37

シニア専修コースでご指導を頂く先生方から メッセージ

(敬称は省略、順序はあいうえお順)

1 段目	名前	2 段目	写真	3 段目	役職名
4 段目	担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科・国際文化学科

影山 尚之	河合 利光	桐藤 薫
		
本学名誉教授	本学名誉教授	本学非常勤講師
日本文学 (1)	国際文化研究	東洋史概説 東洋史特論
いつもご受講くださいます。眠い時はご遠慮なく。	今年も、皆さんと共に学び考える機会を、大切にしたいと思います。	中国は謎に満ちた国ですが、共に学びを進めながら、数多くの「？」が「！」に変わってほしいと思っています。
窪田 暁	桑原 一歌	谷川 泰教
		
奈良県立大学准教授	本学非常勤講師	高野山大学名誉教授
文化人類学入門 (前期)	日本文学 (2) 日本古典文学研究	仏典を読む
専修コースでの偶然の出会いを大切に、「一期一会」を満喫しましょう！	「日本文学 (2)」では本年度新たに、平安時代から江戸時代までの文学の流れを追ってゆきます。また「日本古典文学研究」では本年度『源氏物語』の第二部を抜粋して読みます。どうぞよろしくお願いいたします。	書店では一般向けの仏教書やブッダに関する本を多く見かけますが、できるならブッダのナマの言葉に近いものを自分の目と心で読んでみたいものです。そのお手伝いができたらと思っています。

文学歴史学科・国際文化学科		
玉城 毅	樽井 由紀	中村 直人
		
奈良県立大学教授	奈良女子大学 なら学研究センター研究員	関西学院大学非常勤講師
アジア太平洋文化論（前期）	国際総合研究	戦国大名とその時代 日本史学（2）
世界と自己に対して心を開き、常に新鮮に向き合う、そのような学問を実践したいと考えています。	民俗学・観光学を専門に研究しています。今年は世界の温泉をテーマに国際文化の多様性や共通性を学びます。海外の温泉は各国の自然、歴史、社会経済の環境の違いから温泉に対する認識、利用方法に大きな違いがあります。温泉をめぐる世界一周の旅にご案内します。	日本中世史（寺院史）を専門としています。授業では鎌倉・室町時代の人々や戦国大名について扱います。歴史小説ではなく歴史学では、彼らとその時代をどのように捉えているのか。私自身考えながら、皆さんに提示することができたら幸甚です。
中村 真里絵	原 朋志	本城 二郎
		
国立民族学博物館 外来研究員	関西学院大学非常勤講師	関西大学非常勤講師 関西チェコ／スロバキア 協会理事 言語文化学会理事
文化人類学（後期）	日本史学（1） 奈良・平安の人物と政争	ヨーロッパ地域文化入門 I、II
今年で3年目になります。昨年もみなさんの知的好奇心に大いに刺激されました。講義では、文化人類学の視点から、観光や世界遺産、モノづくりといった現在の人びとの営みについて考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。	日本古代史、主に飛鳥・奈良時代を専門としています。2つの講義では、古代国家の確立から展開の過程を詳説します。「興味深く、分かりやすく」を目標に進めていきますので、よろしくお願いします。	P 7に記載しています。

文学歴史学科・国際文化学科

マーク・ウォーターハウス	松本 充弘（あつひろ）	松山 利夫
		
本学非常勤講師	神戸大学大学院人文学研究科 非常勤講師	平安女学院大学特任教授 国立民族学博物館名誉教授
Revolutions in Communication	日本史学(3)	多文化共生論 日本の風土と文化（前期） 国際観光開発論（後期）
Let's enjoy English and American movies from the classics to modern masterpieces. When we understand innovations in film and cinematography we gain a deeper appreciation for the movie and the movie making process.	今年度、前期の講義を担当させていただきます。専攻は近世日本の地域史です。試行錯誤ばかりですが、古文書から歴史像を立ち上げるものの魅力を少しでもお伝えできればと思っています。よろしくお願いいたします。	仲間をふやしましょう！知的な雰囲気を楽しみましょう。
宮城 洋一郎	山口 悟	吉本 康子
		
種智院大学特任教授 皇學館大学名誉教授	大阪学院大学教授	日本学術振興会特別研究員
仏教の歴史と思想Ⅰ・Ⅱ	国際地域文化 西洋史概論	アジア太平洋文化論（後期）
仏教は私たちの生活に深く関わって、豊かな生き方を教えています。その仏教を理解していくために、前期は大和の主な寺院の歴史と文化財を解説し、後期は日本仏教を支えた24人の思想と実践について述べていきます。	歴史を楽しみましょう。	授業では東南アジア、主にベトナムの事例を取り上げながら、どのような人々が、どこでどのように暮らしているのかについて紹介し、異なる文化的背景を持つ人々の共存について、日本の事例と比較しながら考えたいと思います。

文学歴史学科・情報学科

吉村 稔	小田桐 良一	垣東 弘一
		
本学名誉教授	本学教授	本学教授
日本文学(3) 日本近現代文学研究Ⅰ 日本近現代文学研究Ⅱ	応用情報、情報特論（前期） プログラミング（後期）	基礎情報（前期） ICTリーダー技法（後期）
人生を切り取る「文学」 『そのだシニ専』で「文学」に触れ、眉根にしわを寄せ、涙腺をゆるめ、そしてうなずく刻を楽しんで下さい。	応用情報では、PowerPointを用いた口頭発表を前提としたスライド作成や、大規模なデータを効率よく管理するデータベースの構築や検索の仕組みといった分野の実習を担当します。情報特論では、プログラミングの導入的な内容も扱います。	私たちの身近にあるインターネットは非常に便利ですが、危険な面もあります。情報社会において、情報の知識と技術を習得し、積極的に活用して快適な生活を過ごしたいものです。授業では一緒に頑張っていきましょう！

情報学科

清水 五男	鳥井 新太（あらた）	難波 宏司
		
本学非常勤講師	本学非常勤講師	本学准教授
プログラミング（前期） 基礎情報（後期）	インターネット活用（前期） 応用情報（後期）	課題研究（B）
皆さんは、情報に関することを学ばれる機会は少なかったと思いますが、本学でパソコンが実用的に使えるように学習に励んでください。学習の上で大事なものは、基礎・基本をしっかりと身につけることです。情報教育センターを十分に活用し、情報化社会への対応力を育ててください。	この4月に着任致しました。本学にご縁を頂いたことを嬉しく思っております。現在、情報通信技術は私たちの生活と密接に関わっています。私の授業ではそれらの活用方法を皆様に楽しみながら学んでもらえるように努力して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。	今、特に関心を持っているのが、技術史です。新たな発見が多々あります。例えば、産業革命の意義の再発見や、人類はどのようにして鉄を手に入れたのかなど、その時の状況に自分を持って行って考えると人智のすごさに感動します。「温故知新」を実感しました。

情報学科		
堀田 博史	山口 美緒里	山本 恒（ひさし）
		
本学教授	本学非常勤講師	本学名誉教授
インターネット活用（後期）	基礎演習Ⅰ、基礎演習Ⅱ	応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱ
Society5.0社会の情報技術の進化は著しく、5Gの通信ネットワークも身近になる日は近いです。生活を豊かにするインターネット活用について一緒に学びましょう。	MS Officeやインターネットなど、パソコンでできる便利なツール活用を担当いたします。今や、パソコンとインターネットさえできれば、何でもできる時代です。情報を使う力は子供から大人まで必須になりつつあります。一緒に生涯学び続けましょう！	学びは人生を豊かにします。特に自ら考えながら試行錯誤を繰り返して得た知見は、いろいろな場面で応用できる生きたものになります。また、せっかく共に学んでいるのですから、共に高まろうとする学び方も大切です。一緒に授業を作り上げていきましょう。
植田 みどり	岡田 かおり	【本城二郎先生メッセージ】 私は縁あって、チェコに7年、スロバキアに2年留学し、現在、中東欧とケルト圏を中心に欧州言語文化研究を続けています。皆様は、外国旅行や外国滞在の経験者も多く、外国への関心が高いと聞き及んでいます。本授業では、世界遺産や略史や地名、それに簡単な日常会話表現、さらには芸術文化にも触れることにより、欧州文化の全貌解明を目指します。共に頑張りましょう！
		
情報教育センターTA	情報教育センターTA	
基礎演習Ⅰ、基礎情報（前期） 応用演習Ⅰ、課題研究(B)	情報特論 応用情報（前期）	
授業や自習中にパソコンのことで分からないことがありましたら気軽に質問してください。一緒に考え解決するお手伝いができればと思います。よろしくお願いします。	皆さんの学習がより楽しめよう、サポートしていきたいと思っております。パソコンで困ったことがありましたら、気軽に声をかけてください。よろしくお願いします。	



平成 30 年度シニア専修コース 卒業式

3 月 8 日（金）の午後 1 時から、平成 30 年度シニア専修コースの卒業式が A V ホール（3 号館・2 階）で執り行われ、川島学長から卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。

卒業生は、文学歴史学科 21 名、国際文化学科 14 名、情報学科 12 名でした。



△卒業式に際して祝辞を述べられる川島学長



△祝辞を述べられる松葉社会連携推進センター所長



△卒業証書の授与



△卒業式の風景

（写真と取材：「けやき便り」編集クラブ 平田・藤原）

平成 30 年度 **卒業生からのメッセージ** **回 顧****文学歴史学科卒業生 河崎 英雄**

3 月 8 日、卒業式を終え、履修証明書・卒業証書を受領、3 年間無事無難に過ごせ感無量です。思い起こせば 70 歳の折、川西市が主催する川西市生涯学習短期大学で哲学を 2 年間履修卒業した経緯がありましたが、その後、妻の介護が始まり仕事と介護に忙殺される日々が続きました。78 歳の時妻を亡くし、一人生活が始まりましたが先行きの目標がもてず空疎な時期の中ボケ防止で好きなゴルフを年間 100 回以上するという目標を掲げ自らを奮い立たせ、5 年間続けて参りました。

この 5 年目 82 歳の時ゴルフ年間 270 回をこなしました。と同時に本学のシニア専修コースを知り、体力、気力共に充実している今なら、3 年間頑張れるだろうと言う気持ちと、約十数年間読書から遠く離れて 30 分も本に向き合えない、語彙がどんどん失われていく、ボケの危機感が切実になり、ボケ防止対策と言う極めて不純な動機で、83 歳の時本学シニア専修コース文学歴史学科に入学しました。従って本意は、3 年間無事本学へ通うこと、出席日数を満たして無事卒業式を迎えられることでした。

只私なりにこの 3 年間に望外の収穫がありました。先ず第一は、新しい仲間が増えたことです。私達が文学歴史学科の 15 期生であることで同期会を始めるにあたり会の名前を「いちご会」とし、ほぼ毎月 1 回昼食会で集まり情報交換を中心に雑談で親睦を深めました。卒業後も会は存続し適宜会合を持つことも確認しました。又先輩諸氏が趣味に応じた倶楽部活動をしており、私も「遊歩クラブ」に参加させて頂いております。ゴルフの仲間、勉学の仲間、趣味の仲間、仲間の輪が広がりました。

第二は卒業後も研究生として受講できることです。入学直後先輩方が歓迎会を催してくださいましたが、その時来賓で出席されていた吉村先生が第 1 期生の卒業時のエピソードとして、

卒業後も残れるシステムを要求され、出来なければ全員留年する等の抗議を受け、現在の研究科が新設されたお話をされ、その時は聞き流していましたが、いざ卒業となった時これほど有難い制度はないと第 1 期生に感謝です。これからも暫く元気で通える間は研究生として本学で学んでいきます。

既に 80 代の後半に入り、終活の一環として、豊かな余暇を過ごす場として、本学での受講と足腰の衰えを防ぐゴルフは続けて行きたいと思っています。

 新たな視点で物事を見る**国際文化学科卒業生 毛馬 和子**

友人から本学を紹介された時、電車を通う所が出来る事が、母の介護で外出がままならなかった日々を終えた私にとって嬉しい事でした。消去法で選んだ（文学は古文が苦手、情報はついていけるか不安）国際文化学科でしたので、「文化人類学」に於いてはそのような学問がある事も知りませんでした。学び始めた後気付くようになったのですが、新聞等で色々な出来事について、社会学者・歴史学者・政治学者等々が考察を述べられている内で、文化人類学者の方の視点が「受容的」で「温か」なのです。思わず「そうそう！そうだね」と言ってしまう。エチオピアでフィールドワークをされた時の体験を書いた松村圭一郎さんのコラムの連載を楽しみにしていました。著書も読んでみたいと思っています。

私達のクラスはフィールドワークと称した校外活動も沢山してきました。コリアタウンと大阪人権博物館と大正区の沖縄文化・神戸の八社巡り・神戸の宗教施設巡り・その後の会食—こちらの方が主目的？

松山利夫先生の講義「出雲国風土記」に合わせて出雲へ、同じく松山先生の「遠野物語」の東北へ旅をしました。宿泊は温泉と宴会付き！又南三陸町では、語り部の方から当時の震災の

様子を教えてもらいながら案内して頂き、そして復興工事のとても高い堤防や、震災遺構も埋まってしまうような土地の嵩上げを目のあたりにして衝撃を受けました。今迄映像は沢山見てきましたが、実際に現場に行かなければ分からない体験でした。

受けた科目は沢山あるので研究生に残ります。他に取り組んでいる事も有り、毎年一科目ずつ長く続けられれば良いと考えています。今年は2年生から受けている「西洋史概論」を続けます。若い時は記憶しなければならない科目として苦手でしたが、先生のお話から歴史を通して現在を考える事も出来ると思うようになりました。少しずつ世界が広がれば良いなと思っています。

3年間の学園生活で得たこと

情報学科卒業生 奥山 佳子

この文章を皆さんがお読みになっている頃は新しい元号になっていることでしょう。気持ちも新たに勉学やクラブ活動を楽しんでおられると思います。3年前、園田学園に入学したときは、仕事も介護も終わり、これからどんな風に過ごそうかなと頭を空っぽにして入学しました。

1年生の時はただただ授業の理解と課題提出に追われ、遊歩クラブやIT研究会にも入り学生気分には浸っていました。2年生になると別に所属していたボランティア活動グループの役員になり、学校以外にやらなければいけないことが増えました。でもそれが私にはラッキーだったのです。情報学科で習っていたワードやエクセルがそのまま役員の仕事に役立ったのです。十何年分の会員数や活動時間などの統計や色々な関連付けしたグラフ作成、交流会のチラシ作成等々、必要は学習の母だと実感しました。

3年生になるとホームページ作りが中心になり自立した学習を学びました。自分がどんなホームページを作りたいか、読者想定は？目的は？など文章を考えたり、画像を集めて選んだりしました。頑張っって一人で作ったつもりでも難波先生には研究室や事務所に伺いSOSを何回かお願いすることになりました。このホームペ

ージ作成の経験で、普段から画像や資料は収集しておく習慣が必要と感じました。残しているつもりでも過去のデーターは意外に残っていません。

この3年間で自分が体を動かすこと、具体的なこと、初めてのことが好きだと気付きました。だから平成最後の春は新しいことにチャレンジします。在学生の皆様、貴重な学生生活を十分楽しんでください。

3年間の感謝

情報学科卒業生 大西 正記

園田の門を叩いて、早や3年が過ぎました。

3年前の2月に“シニア専修コース”を知り見学会へ参加・説明を受け、入学を決めました。

情報学科での3年間は、Word(文書)、Excel(表計算)を初めとして、多岐にわたる内容で、先生方やTAさんの指導・助言を受けました。私自身は、講義についていくのがやっとでしたが、クラスメイトからの支援も受け楽しく学べました。

印象に残った授業は、3年の課題研究(写真の補正、色付け)でした。とくに、授業前のITに関する最新の話題や技術について、毎回楽しいお話がありました(例:コンピューターが人類を超える日など)。

楽しかったのは、受講後のチャティーでの茶話会でした。常時8~10名が集まり、講義の話や世間話に花が咲き親睦を深めました。春休みには、神戸港周遊、夙川や大阪城公園での花見と食事会など、楽しい思い出となっています。

入学は、15名(男性2、女性13)、卒業は、12名(男性2、女性10)。少し減りましたが、女性のパワーに圧倒されながらも、楽しい学園生活を過ごさせてもらいました。

今回、研究生となる方、他のシニアコースへ行かれる方など、それぞれ行く道は、異なるかもしれませんが、8期生の同期会を企画していきたいと考えていますので、その時は、参加よろしくお願ひします。

本当に、楽しい3年間に有難うございました。

先生、TA、センターの皆様

そして、クラスメイトに感謝!



平成 31 年度シニア専修コース 入学式

4 月 11 日（木）13 時から平成 31 年度のシニア専修コースの入学式が A V ホール（3 号館・2 階）で執り行われ、川島学長から新入生へ入学許可証が授与されました。

新入生は、文学歴史学科 22 名、国際文化学科 14 名、情報学科 17 名の 53 名です。式典後は、学科別に新入生オリエンテーションが行われ、さらに場所をチャティーに移し新入生歓迎交流会が開催されました。



川島学長式辞



齊藤理事長祝辞



松葉所長挨拶



入学式風景



歓迎交流会風景

▽交流会での「けやき」各クラブ同好会の紹介



コーラス部



カラオケクラブ



I T を楽しむ会



遊歩クラブ



朗読倶楽部



テニス同好会



「けやき便り」編集クラブ



多彩な趣味の会



軽音楽同好会

（写真と取材・「けやき便り」編集クラブ 宮本・藤原）



文学歴史学科

新入生歓迎会

新しい出会いの中

タテとヨコの関係を

文学歴史学科2年 今西 俊秀

5月27日(月) 北海道では39度を記録するなど、真夏のような一日。2019年度文学歴史学科に入学された方々を歓迎する会が催されました。1年生は11名、2年生は18名、3年生は6名、研究生は6名の参加でした。

2年生の田畑さんの司会のもと、まずは松葉社会連携推進センター所長のご挨拶。この歓迎会で「タテ」の関係を作ってほしい。教育環境についてのご要望もクラス委員を通じてしてほしい。健康のために30分以上のウォーキング、大学以外での社会活動への参加、バランスのよい食事をしてほしいというお話を



していただきました。

ここでソフトドリンクでの乾杯。

3年生を代表して竹下さんから、授業以外のクラブ活動にぜひ参加していただき友達を増やしていきましょう。特に、テニス部に1年生が入っていないのでよろしく。

2年生を代表して高見さんから、再び「学ぶ」喜びと新しい友達との出会いを大切にしてください。

研究生の木下さんから、園田に来て10年になりますが、同期会をしたら卒業した30人のうち、19人が参加してくれました。そんな付き合いを

皆さんもして下さい。

各テーブルでは軽食を食べながら新入生を囲んで上級生と歓談が続きます。

今日の主役新入生の方々から一人ずつ自己紹介をしてもらいました。知り合いから園田のシニアコースがあるのを教えてもらいました。ネットで調べていると見つけました。体験授業に参加してとても興味がわきました。一人ひとり動機は違いますが、それぞれお仕事を長年続けてこられて、「学ぶ」ことを再び決意されたようです。また、仕事や地域とは違う仲間との出会いも期待されているようです。新入生の皆さんがお元気で3年間学ばれることを願います。

最後に3年生の山根さんのギター演奏で「バラが咲いた」「夜空の星」を参加者全員で歌いあげました。文学歴史学科が一つになったような気がしました。

閉会の挨拶は2年生の櫻井さん。「新入生」「上級生」と言っても、ご覧のように年齢はほとんど同じです。「タテ」の関係というより、「ヨコ」のつながりを広めていただければいいと思います。「学ぶ」ことはもちろん、新しい友達を作っていきましょう。

今日をきっかけに、他の学年の人とも「知り合い」になりま

した。お互い声を掛け合うことができます。よろしくお願いします。



シニア専修コースによろそ

令和元年(2019)年度 新入生誌上座談会

これから3年間 とともに楽しく 学びましょう!

「けやき便り」編集クラブでは、新入生の方(6名)の入学に向けての動機、感想などを、アンケート形式で集約し、「誌上座談会」としてまとめました。

《参加者》	佐々木 実(文歴)	鈴木 好夫(国際)	前川 忠行(情報)
	南畑 早苗(文歴)	中村 清子(国際)	浅賀 晴子(情報)

▼入学した動機を教えてください▼

佐々木 退職後のセカンドステージとして自由に学べる所を探していたところ、園田学園女子大学に興味のある歴史があったので入学しました。

中村 退職後の生活をより充実したものになりたいと思い、これまでもシニア対象の講座で歴史や文学の授業を受けてきました。今回は、今までとはまた違ったテーマについて学びたいと思い、国際文化学科に入学しました。

前川 昨秋、退職し「引きこもり状態」にならないために入学しました。体力・知力・金力を考慮すると2日/週、3年間は妥当でした。業務上パソコンは使っていましたが、基礎から体系だって学んでみたいことから情報学科に応募しました。

浅賀 非常に苦手なパソコンを系統だてて学べる点が良いと思いました。大学の図書館を利用できるのも大きな魅力。

鈴木 私は3年前に文歴に入学しました。子供のころから日本史に興味があったのですが、学生時代は大して勉強出来ず、退職後ゆっくり学んで見たいと思っていたのです。そのクラスメイトと学ぶ3年間で有意義だったので、今度は国際文化に再入学して、再び学びたいと思ったのです。

南畑 仕事を退職して仕事関連の実学的な事より、今までに勉強したことのない文学や歴史などの分野の勉強をしてみたいと思いました。新しい人との出会いにも期待しています。地元住民なので通学に便利です。

▼やりたいこと、挑戦されたいことについて▼

中村 昔習っていたピアノを、また少しでも上手に弾けるように練習したいなと思っています。ボケ防止にも良いとのことですので。

前川 孫の相手ができるような、遊び心のあるプログラム作成に挑戦してみたいです。

南畑 これからの3年間で無事修了できるように努力します。クラブ活動にも積極的に参加していきたいです。個人的には、国内外の旅行をしたいです。高齢者の仲間入りをしても「学ぶ意欲と好奇心」は忘れずにこれからの学園生活を楽しみたいと思っています。

鈴木 健康である限り続けていきたいと思っています。

浅賀 学んだことを、生活を楽しく便利なものにしていくために有意義に活用したいと思っています。

佐々木 今回の入学を含めて自由なセカンドステージを楽しむ為、歴史の勉強から何か挑戦することが見つければと思っています。

▼学園生活を始められての印象について▼

浅賀 まだ3回しか授業を受けていませんが、皆さんから前向きなパワーを受けながら頑張れる点が独学と違って良いと思います。

佐々木 自由に参加して自由に学べるところです。利害関係の無いところが良いですね。

中村 最初は少し不安もありましたが、すぐに何人かの方と親しくお話してきたので安心しました。また、日頃ほとんど接触のない若い学生

さんたちとの出会いも刺激になります。

前川 何十年ぶりかのキャンパスライフで、浦島太郎のような気分です。まだ校内を歩くにも戸惑っております。

鈴木 学生と同じキャンパスにいただけで明るい気持ちになれて良いです。

南畑 食堂で本当に大勢の若い人達の熱気に圧倒されました。でもその中でシニアの人達も頑張っておられるので少しほっとしました。いまではお昼をご一緒できる人達にも恵まれています。

▼授業やクラブ活動などについて▼

南畑 最初は90分間授業についていけるかと思いましたが、ノンストップの授業は時間を感じないくらいです。よく知らないことばかりですごく興味深いです。近畿はゆかりの地がたくさんあるので現地を訪れてみたくなります。クラブ活動は、そうそうに「遊歩クラブ」に入会しました。これからが楽しみです。

鈴木 授業では試験がないので気楽に受講できるのが良いところです。クラブはテニス同好会ですが、シニアには丁度良い運動になっています。

浅賀 授業はレベル別ではないので、ほぼ初心者の私にはTAさん SAさんのサポートが必須です。いつもありがとうございます。初めての操作が多く、まだ全く余裕がない状態です。頑張れる所までやってみるつもりです。

佐々木 講師のお話が楽しく聴けて良い雰囲気と思います。

中村 まだ始まったばかりですが、授業はとても面白く、これからが大いに楽しみです。クラブは「遊歩クラブ」に入りました。クラブでの新たな出会いや活動もまた楽しみにしています。

前川 新鮮です。予習復習など欠かさず実行していきます。クラブ活動はしばらく様子見です。

▼先輩たちや社会連携推進センターなどへの要望について▼

鈴木 木曜の2時限はずっと2科目のままな

ので、授業数をもっと増やしてほしいです。

同好会が3時限なので、これだけに来るのはもったいない。

浅賀 『仏典を読む』を受講したいと思ったのですが、必修の時間と重なってしまいました。来年の楽しみにします。

佐々木 自由に来て自由に学びたいので、クラス委員に義務感を持たせないようにお願いします。

前川 入学式後に同好会の説明を主とした交流会がありましたが、定期的な交流会の場を設けていただければありがたいです。

南畑 尼崎に長年住んでいるのにこんなに多くの公開講座があるとは知りませんでした。是非興味のある人には紹介したいです。

中村 入学式後の交流会で、クラブ紹介を兼ねて、先輩方の話を聞くことができて良かったです。

▼その他感想、ご意見などございましたら▼

南畑 大学の校舎自体が古いから仕方ないのですが、トイレ・廊下・階段等のバリアーフリー対応が十分でないと感じました。

佐々木 「けやき便り」編集クラブの活動につきましては、学年クラス毎に編集クラブで担当を決めて、活動してください。

鈴木 編集クラブの皆さん、いつもご苦労さまです。

前川 ネット上でもかまいませんが、授業等に関するQ&Aコーナーのような場所があれば幸いです。とにかく今回の入学を通じてキャンパスライフを満喫していきたいです。

編集クラブから

入学早々、新入生のクラス委員の方々にご無理をお願いして、誌上座談会に参加していただきました。座談会からは、新しい学びの世界へ飛び込んだ皆さまの、新鮮で前向きな意気込みが伝わってきます。ありがとうございます。

(まとめ:「けやき便り」編集クラブ 櫻井)

国際文化学科 卒業生を送る会

国際文化学科2年

美間 総一郎



1月25日（金）、昼間とはときおり晴れ間がのぞくものの、最高気温が9℃という、冬らしい寒さの中、午後3時から5号館2階の「チャティー」で、国際文化学科の『卒業生を送る会』を開催いたしました。

3年生の卒業生14名のうち、12名に参加していただき、1年生、2年生、研究生を加えて、参加者は総勢31名でした。全国的に猛威をふるっているインフルエンザのために残念ながら直前に欠席と連絡があった方もおられました。

『送る会』は、1年生の湯浅さんの爽やかな司会で始まり、まずはソフトドリンクで乾杯。その後は、サンドイッチやパスタ、タコ焼きなどの軽食をつまみながら、しばらくは各学年が入り混じって、楽しく歓談をいたしました。

おなががり落ちついたところで、3年生のひとりひとりに、自己紹介と、園田学園を卒業するにあたって一言、それと今後の進路の紹介をしていただきました。1年生、2年生にとっては、これからの学生生活を送るにあたって非常に参考になる貴重なお話しが続きました。例えば、授業の内容をその日のうちに5分間でも復習すれば記憶に残る、というお話や、授業とクラブ活動以外のクラスとしての活動が楽しかったというお話、4年以上かかって頑張って卒業されたお話などが、印象的でした。今後の進路については、多くの方が引き続き研究生として園田学園に残られる、ということでした。

続いて、3年生の「個人の学びをみんなに広げる取り組み」のクラスミーティングの発表例として松原さんから『北海道紀行 道東の湖巡り』の報告をしていただきました。

次に、3年生の河田さんから3年間のクラスの歩みを報告していただきました。内容は、『遠野物語の旅』『出雲国巡りバスツアー』『神戸外国人宗教施設巡り』『神戸八社巡りフィールドワーク』などでした。3年の間に行なった様々な活動

について聞かせていただき、あらためてその企画力、行動力、団結力に驚かされました。



その後は、コーヒーとケーキをいただきながらしばらく歓談したのち、研究生、2年生、1年生の代表の方々から、3年生の皆さんに贈る言葉をいただきました。

最後は、研究生の真鍋さんの発声により、三三七拍子の手締めを行ってから、全員で記念写真を撮りました。その後は、『送る会』では出会えなかったアルコール飲料を求めて、多くの方々が塚口駅界隈の二次会場に向かいました。

最後になりましたが、今回の『送る会』に参加し、お手伝いいただいた方々、盛り上げてくださった大勢の皆さま、本当にありがとうございました。



第4回 情報学科同窓会



情報学科卒業生 同窓会世話役一同

春を待つ雨模様の3月6日、情報学科第4回同窓会を開催いたしました。

今年は、シニア専修コース開設40周年と、情報学科開設10年にあたり、特別な意味を込めて1部講演会、2部懇親会とした企画をいたしました。

開催場所は、3年から5年間学んだ思い出の学び舎を希望し、学内での開催のご許可を頂きました。

第1部講演会は、恩師山本恒名誉教授にお願いし「これからの情報社会とシニアとの関わり方」と題して特別にご講演を行っていただきました。



しました。

講演は、「技術と社会の変革・・・イギリス産業革命に始まり・・・1946年汎用デジタルコンピューターと時代を追って変化」して来た経緯、トフラーの予言した社会の思想など話されました。Alvin Toffler(1928～2016)は、「第三の波」で



情報社会の到来を予言した未来学者ですが、

先生から多くのことを改めて学び、生涯学び続けることが必要な時代、創造性を常に求められる時代へと更に認識させられました。

第2部懇親会は、来賓ご挨拶を情報教育センター所長・難波宏司先生、社会連携推進センター課長・大野明子氏からいただきました。乾杯の音頭は、同窓会のご提案をいただきました野間さんで始まり、世話役の徳田さんの司会進行により楽しい歓談となりました。各同期生からは沢山の近況報告をいただきました。

卒業後、お互いに元気な姿で再会出来た喜びや、更に情報学習を続けておられる方、今年から始められる方、ボランティアをされておられる方など、何らかの活動をされておられる方々との賑やかな時間が短く過ぎてしまいました。

これからも、それぞれの目的に邁進し元気に来年お会いすることを願って、山本太さんの閉会挨拶といたしました。

情報学科卒業生 同窓会世話役一同

辻、玉田、森川、篠岡、峠田、徳田
写真 森川、編集クラブ・宮本



尼崎城見学

文学歴史学科 9期同期会

研究生 木下 俊造

桜花爛漫の4月5日、一般公開から一週間の尼崎城見学とホテルでのランチ会に、文学歴史学科9期生18名が揃い、久しぶりの再会を楽しみました。

当日は、いつも以上に多くの参加をいただいたおかげで一段と賑やかになり、真新しい城とホテルの豪華なバイキングランチ、尽きることのないお話を満喫され、笑顔も満開で、素晴らしいひとときを過ごされたようです。



天守からの眺めは、予想以上に素晴らしく、各階では、着物姿での写真撮影や、名城100選の手拭の見学、武具を使ったゲームなどで時間を過ごすうちにお待ちかねのランチタイム。

ランチメニューは、さすがホテルというものばかりでしたが、やはり今回も主役はおしゃべり、歓談、近況報告でした。乾杯から最後の各自一言コーナーまで、18人にもなると2時間のランチタイムが、一瞬のように思えたのは私だけではなく、帰りの車中まで、お話が続いた方もおられたようです。

園田学園女子大学入学後10年近く経ち、全てに順風満帆とはいかないようですが、参加された皆様の、今を大切に、少しでも前へ進むとする姿に、シニア専修コースのおかげで素晴らしい仲間恵まれたとの思いを抱き、次回9月の再会を楽しみに阪神尼崎駅を後にしました。
*尼崎城天守再建のために、約10億円の寄付をされた安保詮(あぼあきら)様、チャンスをいただきありがとうございました。

元気いっぱい ハイキング

国際文化学科 14期 同期会

研究生 三木 静子

今年3月に卒業した私たち国際文化学科14期生は、卒業後も集まりをと話し合ってきました。最初の同期会の行き先は、クラスにいる登山家のKさんが「初心者でも行けるハイキングコース」を考えてくれました。卒業式当日、卒業を祝う会に14名全員が集まった場で、行き先を「夙川方面」と最終の確認をしました。

夙川の桜の花見が終わり、静かになった5月26日(日)、夙川駅に集合しました。当日は、体調のすぐれない方や前日帰国の方などの欠席がありましたが、ご家族や他学年の方などの参加もあり、12名と犬1匹の参加でした。

夙川沿いの緩やかなハイキングコースを通り、緑あふれる北山植物園に向かいました。途中でコースの後半は、息も絶え絶えの私たちで、大勢のボーイ・ガールスカウトに道を譲りました。参加のワンちゃんは途中でダウンし、リタイアしました。

たどり着いた公園内の北山山荘で和菓子と抹茶で一休み。その後は、バス組と歩き組に分かれて、六甲保養荘に向かいました。

保養荘で入浴後、会食と団らんです。卒業後の園田シニアでの、講座の感想やクラスの様子を語り合いました。次回の12月は見学と忘年会とし、

担当を決めた後、全員元気に下山しました。



シニア専修生が講師として発信

園田学園女子大学公開講座

人間を考える ～夢の諸相～

2018年11月17日(土)、公開講座「人間を考える」で、本学シニア専修コースから乙度麗子さんと横山誠さんが講師を務めました。当講座は1982年にスタートした歴史ある看板講座で、本学シニア専修生が講師を務めるのは今年で5年目となりました。

◆ 私たちの夢 一葉の充実一

研究生 乙度 麗子さん

仕事から開放されて、さあこれからは時間はたっぷり！テレビは見放題、食事会も習い事でも旅行でも、なんでもやり放題、と思ったけれど、さて何をやったらよいのか・・・でも大丈夫、持ち前のパワーで挑戦が始まります。

ロバート・ハリス著『人生の100のリスト』にならい、まずやりたいことのリストアップ、リタイア前からの「テニスを続ける」、「日本語を教えよう」「中国語を勉強しよう」などなど。

シニア専修コースでは情報学科を専攻しました。パソコンくらいは軽いものと思ったのに、めっちゃ難しい！でも持ち前の頑張り屋さん、MOS試験(マイクロソフトOfficeの公式試験)のすべてに合格し、なんと「マスター」の称号まで取得したのです。その実績から、今も園田



学園の「大人のPC公開講座」の先生の助手(TA)を務め活躍されています。

日本語では、420時間もの受講を経て教師資格を取得し、今は中国人に日本語を教えています。中国語の勉強でも、中国本土や台湾に短期留学もされ、その成果を流暢な中国語で披露してくださいました。

乙度さんは、最後に以下のように締めくくられました。「今日この日を、この瞬間を楽しんでいる人が最高だと思います、楽しく夢を持って生きていきましょう！」

◆ さあ旅に出よう

研究生 横山 誠さん

横山さんは、まず、旅とは何かを問いかけます。ツアー旅行と個人旅行や放浪との形態の違い、それにともなう主体性や商業要素の有無、費用や移動手段などの条件など、旅について分類し分析や解説を加えます。

横山さんは、団体ツアーも観光旅行も認められたうえで、ご自身はなんといっても一人で歩く旅が大好き！なのです。



そこには、歩くなかで季節を感じ、日常から離れ、移動を楽しむ気ままさがあっていいと思います。一人旅は自身の「見る」「聞く」「匂いを嗅ぐ」「触れる」「味わう」など五感を働かせることがどうしても必要になり、それが楽しいのだと。

横山さんは45歳くらいから「東海自然歩道」を歩きはじめ、ここ3・4年はとくに一生懸命歩いておられます。愛知の山奥で宿がなくテントを張ったり、その時にカモシカに出会ったり、正月開けの民宿ではおせちの残りを宿主とともにいただくなど、様々な苦労と楽しみを経験されました。箕面から始まり、あと10回ほどで高尾山までの全行程を制覇できる予定だそうです。

横山さんのお話を聞いて、忘れかけていた「旅」への憧れがよみがえってくる気がしました。

(写真と取材：編集クラブ 宮本、櫻井)



国際文化研究

学習成果発表会を終えて

研究生 井上 聖明

平成 30 年度研究生による「国際文化研究」学習成果発表会を 12 月 12 日（水）におこないましたので、報告させていただきます。

当日発表した項目は以下のとおりですが、発表できなかったものも併せて文集「旅とフィールドワーク」にまとめましたので、また目を通していただければ有り難いと思います。

1. 野外研修報告

- ー潜伏（かくれ）キリシタンの地を歩くー
- 「堺市のキリシタン面影を探して」
- 「関西の隠れ切支丹資料探訪」

2. 海と交易

- ーヒト・モノ・ココロを繋ぐ海ー

3. 津軽を訪ねて

- ー史跡弘前城ー（映像記録）

4. 宮古島に滞在して

- ー言葉／浜下り行事ー
- 「宮古島の言葉」
- 「友利地区における海サニツ」

5. 中国・台湾の客家（はっか）

- 「客家ー中原から来た人々」
- 「台湾の客家文化について」

以上 5 つの項目でしたが、幾つか複数メンバーで取り組んだ項目もあり、それぞれ内容が異なることから 8 名で発表することとなりました。

発表会の計画を進めるなかで「90 分の時間内に終える様、均等に時間を割ってまとめるべき」との意見や、「あまり短縮したのでは、折角いろいろ調べてまとめた内容が伝わらないので、ある程度持ち時間のばらつきがあってもしかたがない」との発言も出て、掲示した案内書には時間内に納まるような時間配分を載せたものの、実際は発表者の判断を優先する事となり、全体

で少しオーバーしてしまいました。

いつも、貴重な時間をさいて参加して頂く皆様に、自分達が調べたことをうまくお伝えできる方法はないかと、いろいろ思案していますが、なかなか思うようにいかないのが現状で反省はつきません。今回、それぞれの項目についての配布資料を少しだけ増やしてお配りしましたので、気にかけて目を通してくださった方もおられたのではないかとと思っています。

それと、発表会終了後に、発表者と参加者を交えて質問や意見



交換会を兼ねた「懇親会」の場を設けましたが、こちらには思いのほか多数の方が参加して頂き、お互いの自己紹介や、それぞれのテーマに取り組んだいきさつなどに加え、発表会で旨く説明が出来なかったところもあらためて話をさせて頂き、おおいに盛り上がった時間を過ごす事が出来ました。

実のところ、この懇親会は発表会直前の発案で実施することになり、私としては「参加して頂ける方の人数もわからないままで、当日にいきなりの案内ではとても難しい」と勝手に考え、とりあえず会場の「チャティー」は予約はしたものの、ほんとに開催できるか不安でしたが、厚かましい参加のお願いをほとんどの方が快く受け入れて頂きびっくり。

今回も皆様の優しさとお力添えで無事に終了、感謝、感謝の一日となりました。

取り戻す若さ 青春18切符の旅

けやき便り編集クラブメンバーで

「編集会議が終わってからのたこ焼きが楽しみで編集会議にも顔を出している」・・・とはい過ぎだが、たこ焼きとビールとおしゃべりが佳境に入った頃、Iさんの「青春切符でどこかへ行かへん！」の発案にみんなが飛びついた。

3月14日、参加者は男性3人女性5人の8人で、ボックス席なら上手く収まる人数だ。尼崎から出発しラッシュの中を揉まれて米原行きに乗りこんだ。

石山も過ぎる頃にはしっかりボックス席に並んで座ることができ、男性陣はビールで乾杯！女性陣は向き合った4人のひざに誰かのコートをかけてテーブルのようにしてトランプのババヌキが始まった。え、何年ぶり？

米原で大垣行きに乗り換えたころから雨が。春雨というのか・・・降っているか降っていないかの雨が窓ガラスを濡らしていた。雪が所々残っている。向こうに見えるのは伊吹山か。

大垣で乗り換え、金山へ。そこから地下鉄でお城に近い「市役所」まで。



矢場とんで味噌カツ

名古屋と言えば味噌カツ。「矢場とん」でたっぷり味噌ソースをかけてもらったカツを頬張り守口漬もカリカリといただいた。お腹がいっぱいになれば目指すは名古屋城。再建されたばかりの本丸御殿を、ボランティア

ガイドさんに案内していただいて見学館を巡った。多くの絵師による美しい襖絵、見事な欄間の彫り物、釘隠しや引手の細工などなど、精巧で豪華絢爛の装飾に圧倒され



豪華絢爛「本丸御殿」

て、感嘆のため息～。

文化財を堪能したらまたお腹が・・・喫茶店でホッカリ。帰路は予定の電車に乗り遅れそうになったり、車中でKさんがBSテレビ『こころ旅』の「火野正平」に間違われるなど、ハプニングが続き・・・ここでもビールで盛り上がり～。無事楽しい電車旅を終えました。

「“編集”18切符の旅」アルバム後記

いやはや、青春18切符の旅から2週間がすぎましたが、昨日のように思い出されます。

この「いやはや」には、「ため息、疲れ、おどろき、あきらめ」のような意味は含まれていません。あえて言えば、「楽しかったなあ、面白すぎるなあ、何度でも～」といったことばの代わりに使っているものとしてご理解を。

それにしても、豪華な見学、豪華に見える食事でした。また、珍道中でもありました。

通勤通学列車での「トランプ」は、アメリカのトランプさんの可笑しさ、勝手気ままさに勝るとも劣らない、ものですね。

車中での酒盛りも、周りの雰囲気と全く異なる「異界」です。「清酒きっぷ60過ぎの旅」とでもいった感じです。

おまけと行っは失礼ですが、案内のガイドさんの感じも、我らの珍道中の雰囲気をさらにアップしてくれています。

とはいえ、満開の桜と名古屋城を背景にした集合写真は圧巻です。さすが我がグループのセンスと容姿を引き立ててくれています。

企画、そして写真とアルバム作りをくださったIさん、Mさんありがとうございました。

また、道中を楽しいものにしていただいた皆さんに感謝です。

(編集クラブ 西島、河田)



Mさん作成のミラバム

百寺巡礼

文学歴史学科2年 田畑 芳彦

今から10年ほど前、仕事の第一線から退いた身として、これからいかに有意義な人生を送るかを考えていた時、五木寛之さんの『百寺巡礼』に出会いました。五木さんは私の敬愛する人で『大河の一滴』は座右の書として何度も読み返しています。ある日書店で『百寺巡礼』のシリーズ本を見つけた時、心の中で「これだ!!」と叫んで直ちに全10巻を購入しました。『百寺巡礼』は五木さんが選んだ日本全国に散らばる百の名刹を訪ねる紀行記でテレビでもシリーズとして放映されていました。

「五木さんと同じお寺を巡ってみよう」これが私の思いついた自分プロジェクトでした。とにかく北は青森から南は熊本までお寺が散らばっているのですから百カ寺を巡るのは簡単なことではありませんし、相当な長丁場を覚悟しなければなりません。妻とも相談の結果、妻は写真班として同行することになったのですが、私達には老齢の母親がいたために何時不慮の出来事が起こるかもしれないという不安もある中でのスタートとなりました。

結局このプロジェクトは2009年5月の奈良・室生寺から2018年11月京都の東福寺まで百カ寺を周り終わるのに9年半掛かりました。一番北が青森の恐山、一番南が熊本の本願寺人吉別院です。この間色々なことがありましたが何ととっても最大の出来事は2011年3月の東日本大震災です。我々が東北地方を訪れたのは2012年ですから震災の大きな爪痕が沢山残っていました。テレビで見るのと現場で見る違いを痛いほど感じました。また私事でいいますと、当初懸念したように妻の母親が2015年に亡くなり、私の母も2016年に有料老人ホームに入りました。

百寺は五木さんに選ばれるだけのことはあって、いずれも古い歴史を有する名刹揃いなので

すが、その中で敢えて記憶に残るお寺をご紹介します。

青森・恐山

下北半島の斧の部分の真ん中辺りにあるお寺で、亡くなった人の霊を呼び下す「いたこ」で



恐山、地獄から見た山門

知られています。お寺に到着するや強い硫黄の匂いが鼻を刺します。休火山である恐山には硫黄を含んだ蒸気や熱湯を吹き出す穴が無数にあり、恐山八大地獄と名付けられています。地獄の先には賽の河原があり人々が積んだ石の塔が沢山並んでいます。またその先には白い砂浜のある湖が現れ、参詣者はそこに浄土を重ね見て



恐山、強酸でコインは変色したり溶けてしまいます

死者の魂に思いを馳せるのです。この地はお寺が建つより遥か昔から死者の霊の集まる聖地として崇められてきたのですが、今もその信仰が固く守られているようでした。

福井・永平寺

言わずと知れた曹洞宗総本山で道元によって創建されました。厳しい修行をすることで有名で、今も200人もの雲水がいるそうです。他の禅宗のお寺では伽藍は拝見できても修行している雲水の姿を見かけることは稀なのですがここは違います。最初に観光客に伽藍の説明をするのも彼らだし、回廊でもしよっちゅうすれ違います。彼らは一様に若く皆清々しい顔つきをしています。動作も機敏で歩く姿勢もピンと背筋を伸ばし、手はブラブラさせず前に組んでいます。修行の約束事なのか物を言わずキッと前を見据えて歩いていますが、本堂の前を通る時は立ち止まって拝礼していきます。見ていて大変気持ちがいいものです。都会でよく見かけるコンビニの前にへたり込んでたむろしている若い衆とは明らかに異なる顔です。このお寺には国宝も重文もありません。訪れる観光客が皆曹洞宗の檀家かというところもなくそんなことでもなさそうです。それでも多くの観光客が訪れるのはこんなご時世にも拘わらず、毎日厳しい修行に明け暮れている若い雲水達を見ることによって、日頃ダラダラと無為な生活を送っている我々が刹那とはいえ、背筋を伸ばした正しい生き方をせよとの警策の一撃を感じるからではないでしょうか。

鳥取・投げ入れ堂

三朝温泉の近くに三仏寺というお寺があり、そこに国宝の投げ入れ堂があります。このお堂は修験道で有名な役行者が開場したと言われるだけあって、断崖絶壁に張り付いて建てられています。そこに至るまでは木の根っこに縋ったり、ぶら下げられた鎖を頼りに上っていくのですが、今まで滑落事故で何人かが亡くなっているという大変なところ。受付に行くと先ず

靴のチェック。私の履いていたシューズはあえなくダメが出て1足700円なりの草鞋に履き替えさせられる。また入山届へ記帳しようとする、一人での入山は危険なので認められないというので暫く待っていたら、都合よく大阪から来たという人が現れたので一緒に登ることに。登山というよりロッククライミングのようなことを小一時間やって、やっとこさ到着した時の写真を撮ってもらいました。疲労困憊の中にも満足感漂う顔をしているではありませんか。



投げ入れ堂
ようやくたどり着きました

百寺はいずれも古い歴史を持っているのですが、殆どのお寺が失火や戦による火災で多くの塔頭を焼失しています。また時の政権の変遷により寺領の多くを取り上げられたというケースも多々ありました。「今はこんな状況だが最盛期は数十の塔頭と僧房が並んでいた」という説明を何度も聞かされました。明治の神仏分離令が出された際には有力なお寺が廃寺寸前まで追い込まれるということもあったようです。しかし私が巡った百寺はいずれもそういう困難を乗り越えて現在に至っています。火災に際してはご本尊を抱いて逃げ、塔頭の再建には全国を行脚して浄財を募ったりしてお寺の存続を図ってきたのです。

百寺巡礼を無事終えた今思うことは「遥か千年もの時を刻んできたお寺を我々の世代で途切れさせることがあってはならぬ」ということです。

パリ旅行

2019年4月3日～9日

国際文化学科1年 十河 和夫

1. モンパルナス墓場にて

何なのだ！このキスマークは？と僕は思った。



パリ観光の一つとしてサルトルの墓にルンルン気分で来た僕を驚かしたのは墓石にキスマークがつけまわられていた事だ。しかし、僕をそれ以上

に驚かしたのは、キスマークよりサルトルとボーヴォワールが同じ墓に納められていた事だった。

「私たちのあいだの愛は必然的なもの。でも偶然の愛を知ってもいい」と宣言して二人は2年間の契約結婚を結んだ。だが、日本でいう法律的な結婚はしていない。結婚していても、同じ墓に入れられたくないと叫ぶ日本の妻ではないが、僕はてっきり二人は別個の墓に収められているのだと思い込んでいたのだ。

墓は普通の大きさだった。僕たちは墓に礼拝した。誰かが手向けた花が墓石の上でドライフラワーとなってカサカサと風に揺らいでいた。

妻が「花束を買ってくるべきだったわね」とつぶやいた。

僕は「そうだね」と小さく答えた。実は僕も手ぶらで来たことを悔やんでいたのだ。

「来る時に花屋があって安くて綺麗な花があったの」妻は後悔しているようだった。

「来ただけで喜んでくれているよ」僕はそう答えながら妻との出会いはサルトルとボーヴォ

ワールがいたからだということを思い出していた。

1966年、サルトルとボーヴォワールが来日した時、僕はテレビに囁りついて見ながら彼らのような恋愛をしたいと思ったのだ。そして、その後いろいろあって僕のボーヴォワールを見つけた。それが彼女だった。彼女が二十歳の時同棲して僕たちは今も一緒に生活している。

サルトルは恋多き人、ボーヴォワールは情熱の人だった。そして、必然的だと思うが、それぞれに「偶然の人」の恋人がいた。ボーヴォワールには『朝はもう来ない』の作品で知られる作家ネルソン・オルグレンがいた。二人の間に生まれた情熱的な愛は後の自伝小説『レ・マンダラン』で描かれている。ネルソンは結婚を望んだが、ボーヴォワールは結局サルトルを選んだのだ。

実をいうと僕はサルトルの小説は難解で好きでは無かった。小説では、彼よりカミュが好きだった。『反抗的人間』『異邦人』『ペスト』など彼の作品をむさぼるように読んだ。特に『シーシュポスの神話』のテーマだった「不条理(absurde)」が僕のお気に入りの台詞だった。

でも、人生の生き方ではサルトルとボーヴォワールの二人に共鳴していたのだ。僕たちがどこまでお互いに理解していたかは恥ずかしい限りだ。

墓場は早春の肌寒い風が吹いて寒々とした風景だった。「寒いね」と僕が言うと、

「そうね、淋しいわ」とトンチンカンな答えが返ってきた。そうなんだ、僕たち二人はくい違っていた。それでも理解しあってきたのだ。

僕は妻と二人でサルトルとボーヴォワールの墓に参れたことに運命を感じた。何があっても最後は二人で生きていく事が必然なのだと教えてくれたのではないかと。

2. カフェ「カフェ・ド・フロール」にて

「あの二人を見て。ランボーとヴェルレーヌみたいね」と妻がつぶやいた。見ると、年の差がある男のカップルが、蜂蜜がたっぷり掛かったスポンジケーキを仲良く食べていた。



「そうだねー」と返事をして二人を見つめた。僕もその二人には気がついてた。先ほどまでワインを飲んでたが、最後の締めでデザートにしたのだ。若者がスプーンでつついて食べた後、連れの男もそこにスプーンを入れて食べる。仲が良く微笑ましいカップルだと僕は思っていたのだ。

ランボーとヴェルレーヌが文学論を戦わしていた時代には同性愛差別があった。それでも、カフェには思想を異にする多くの画家や文学者が集って論争した。それが、フランスの伝統なのだと思う。そうした議論から、「自由」が大事だという思想が産まれたのだろう。

パリの空はどんよりして肌寒い天候だった。が、店は満員で席待ちしている人が待機していた。世界中から、サルトルとボーヴォワールのファンが、二人が書斎代わりに使っていたこの店を目指してやってきているのだ。そのお上りさんの一組が僕たち夫婦でもある。

僕の好きな金子光晴もこのカフェに来たのだろうか？ 金子は森三千代を先に一人でパリに旅出させた後、マレー半島で金を工面してやっそこさパリにやってくる。二人は落ち合っこのカフェに来た？ いや、彼のことから、隣のランボーが愛した「レ・ドゥ・マゴ」の方だろう。そちらの方が彼には似合うと思った。

妻と僕たちの間に会話は少ない。会話よりビールやワインの方が好きなのだ。

僕は昔見た映画『いつも二人で』を思い出していた。僕の好きなオードリー・ヘップバーンが主演で、旅先で知り合った男とフランス旅行する話だった。その中で今でも記憶に残っているシーンが、レストランで男女のカップルが黙って食事している場面だ。ヘップバーンが「あの二人の関係は？」と恋人役のアルバート・フィニーに聞くと、彼がポツンと「夫婦だよ」と答える。

あれから何年経ったのだろう。夫婦という関係が理解出来るまで何年かかったのか？

そんな思い出はともかくとして、彼女が何年も前からもう一度行きたいと願っていたパリに来たのだ。そして、あの映画と同じように 35 年前に観光した所を再度巡る追憶の旅となった。

「映画のワンシーンみたいだな」と僕はつぶやいた。

「え、何、何と言ったの？」
妻が珍しく反応した。

「何でも無いよ。独り言だよ」と僕は小さくつぶやいた。

妻は、それ以上は何も聞いてこなかった。

店の前はオスマニアン様式のアパルトマンが建ち並んでいた。そこからひょこっと『肉体の悪魔』役のジェラルド・フィリップが出てきてもおかしくない風景だった。

妻はワインを飲み、アパルトマンの上にどんより広がる曇を見上げていた。僕もフランスビール「1664」を呑み、妻と同じように空を見上げて心の中で思った。

「やはり映画のワンシーンの中にいるのだ。追憶と同席しているのだから」と。

***料理は、カフェ「カフェ・ド・フロール」名物のサラダ・フロール**



民謡「あやぐ」が伝える



研究生 松隈 美江

国の重要文化財に指定されている宮古上布。3年前、私は、この宮古島に伝わる伝統工芸品をテーマにフィールドワークを行った。

「伝統工芸センター」を訪ね、その製作工程をつぶさに知る。苧麻裂き（ブーサキ）という宮古上布の材料となる細い糸を紡ぎだす体験もさせてもらななかで、この貴重な布ができあがるまでいかに過酷な労働と時間が費やされているのか、まざまざと知ることになった。

その時手にした「宮古上布～その手技～」という冊子の中で宮古上布を紡ぎ、織りなす女たちの思いが歌われた古い民謡「あやぐ」に出会う。宮古の織物のいわれや、人としての教え、人頭税の圧政に耐える人々の暮らしを歌ったものだった。

宮古上布にこんな物語があったのか。もう一度、宮古に行ってこの「あやぐ」を調べよう。以降2度の宮古行きはこれがテーマとなった。

生の「あやぐ」をもとめて

「あやぐ」を手掛かりにと意気込んで宮古入りしたものの、「あやぐ」との出会いは苦労の連続だった。

図書館、書店を回って資料を集めた。公園に設置された「あやぐ」の石碑も見た。「とうがにあやぐ」の碑だった。難解な発音記号も添えられたものだったがあまりに難しい。

宿のオーナーが、親族の米寿の祝いのCDや「宮古方言大会」のCDなども見せてくれた。民謡ライブの店にも足を運び、宮古上布の研究会にも参加してみた。

しかし、生の「あやぐ」に出会うことはできなかった。

そして、最後の日。

八重干瀬の情報を知るために池間島に泊まることにしていた。ところが偶然にも、宿の女将さんが出場する民謡大会に誘ってくれたのだ。宮古民謡のもっとも大きな大会だった。そこで3時間、生の「あやぐ」に浸ることが出来た。

宮古上布の始まり

1583年栄河氏真栄の妻、稲石が、「綾錆布」を織り、尚栄王に献上したのが宮古上布の始まりという記録がある。

宮古上布はその頃から現在まで、宮古島の女たちによって受け継がれ、伝えられてきたものと、私は簡単に考えていた。

しかし、一つ一つの民謡の意味をさぐると、女たちが宮古上布を、身を削るように織り続けることを強いられた歴史が見えてくる。

1636年、琉球王府は宮古・八重山に「人頭税」と言われる税を掛けていた。男女とも15歳になったら納めなければならない。例外はなく、連帯責任であった。50歳まで、女は上布で、男は粟で納める。

「豆が花」という民謡の中では、娘を現地妻にしようとする王府より派遣された役人から娘を守ろうとする父親の強い抵抗が歌われている。琉球に先島（宮古島）の妻子を連れ帰ることは許されなかった。島に在任の時だけの妻であり、その間だけ税の納布を免れていたのだった。

過酷なくらしのなかで紡がれた糸

宮古島にはウリガーという地下洞窟がたくさんある。宮古島はいちばん高い土地で海拔100m余り、殆どの土地は琉球石灰岩で出来ている。雨水は地表に溜まらずに石灰岩を通して、地下の粘土層の上に溜まる。そのようにして水が溜まっている所をウリガーと呼ぶ。そして、その水を汲んで生活用水にする。

昔から水を汲むのは女と子どもたちの仕事だった。女たちは早朝、水汲みの順番を待ちなが

らもそこで「ブー績み」(織り糸の準備)をしていたのだと言う。この重労働の合間に宮古上布の糸が紡がれていた。

「あやぐ」に込められた思い

「クイチャー」という「あやぐ」がある。「クイ」は声、「チャー」は合わすという意味。声を合わせ、手を振り、足を踏みならし、体全体を使って踊る。三線(さんしん)も太鼓も無い、声と体だけで歌い踊る。雨乞いや豊作を願う古い形のアヤグであるが、日常の楽しみとして、自然発生的でもあった。若者たちの出会いの場であり、民衆の祭り、数少ない娯楽の場でもあった。この「あやぐ」のなかに宮古上布を紡ぎ、織り続けてきた女たちの思いが託されている。

明治になってもなお・・・

明治になり、新政府は地租改正をした。税金は金納に変わった。しかし、宮古・八重山の「人頭税」は続いた。「旧習温存政策」によるものだ。なぜ宮古・八重山だけ温存されたのか。誰が上布の物納を温存して欲しいと願ったのだろう。金納でという再三の訴えも退けられた。抵抗運動のなか、死者も出ている。1888(明治21)年の大飢饉を機に人頭税の廃止が訴え始められ、1893(明治26)年、代表団が上京して請願書を国会に提出した。その請願書には島民の生活が次のように記されている。

——— 島民はさつま芋を常食とし、大半の島民は粟の味をしらず。味噌を持っている者は全島民の4分の1で他の皆は海水に水を足して芋の葉や蔓、海藻などを煮て食べている。醤油などは口にすることは無い。衣服は夏は芭蕉布1枚、冬は破れた木綿の着物を1枚上に着るのみ。ひどいところは、1、2枚の夏着を家族で代わる代わる着ている。建物も丸太の上に草で屋根を葺き、茅を編んで四面を囲っているだけで、大半は土間で、蓆をしくのは稀である。家も非常に小さく要するに本州の乞食を彷彿とさせる。(一部要約) ———

こうした廃止運動が実り、1903(明治36)年1月1日の新税法施行に伴い260年余にわたる

人頭税は廃止された。

請願の代表者たちが帰島した時、農民の大群衆が迎えて鏡原馬場でその成果を祝福した。その時に作られたのが「人頭税廃止のあやぐ」である。

宮古の「あやぐ」は、民衆のほとぼしる思い—苦しみも喜びも誇りも—によって生み出され、さらに付け加えられながら、今に伝えられている。

国際文化学科の卒業アルバム

『学び・出会い・つながり』

国際文化学科前3年 クラス委員

2019年3月の卒業を記念して私たち国際文化学科3年は卒業アルバムを作りました。タイトルの『学び・出会い・つながり』は、私たち3年間の表す言葉としてつけたものです。

3年間の学友全員の名前、年度ごとのクラスの自主的な取り組みもその時々写真と共に載せています。1年では金セピョル先生と国立民族博物館見学会があったことや、毎年4回開催したクラスミーティングの報告の題目と報告者名もあります。年に一度のフィールドワークや、松山利夫先生と行った遠野への研修旅行などの行事の写真もあります。

懇親会などで、食べ・飲み・話す会がたくさんあったこともわかります。下のページは、2年7月に発行された最初で最後の「国際文化学科つうしん」が載っているページです。



(文責・河田)

「けやき便り」創刊のころ

研究生 中村 米三郎

1. 創刊のいきさつ

私(初代編集長)は、定年後「SITA-K」というボランティアのパソコンクラブを立ち上げて、10年間ほど、川西市(第3セクター川西能勢口振興開発株)と神戸市(兵庫県立神戸生活創造センター)で活動していました。

平成22年2月頃、この神戸生活創造センターで同じようにクラブを立ち上げて活動されていた故柳田利康さん(第2代編集長)に出会いました。柳田さんは、すでにシニア専修コースに通学されていて、私にシニア専修コースの有意性と楽しさを語って下さいました。

それから間もなく、私はシニア専修コースに行き、当時の松成所長の面接を受け、入学を認めて頂きました。面接の時、入学すれば「パソコンクラブ」を立ち上げたいとお願いをしました。松成所長は、パソコンクラブも良いですが、できれば「けやき通信」が長い間休刊になっているので、シニア専修コースの情報誌を作って頂けませんかとおっしゃいました。情報誌編集の経験が全くない私には「無理です」とお断りをしました。松成所長は、どうしてもお願いをしたいと強く言われたので、取り敢えず入学すれば、「考えてみます」と引き受けました。

2. 仲間づくり

10年間程続いていて、かなりマンネリ化している「SITA-K」を3月末に解散して、平成22年4月、国際文化学科に入学しました。入学後直ぐに、情報誌作成のための仲間づくりを行いました。

まず、柳田さん(国際文化学科2年)に声をかけます。柳田さんには「仲間から誘いを受け、“使い走り”ならという事で引き受けました(創刊号編集後記より)」快諾して頂きました。

次に、私と一緒に入学した「SITA-K」の仲間山本文子さん(情報学科)に頼みました。

編集後記で「私に関わるとは夢にも思わなか

った“けやき便り創刊号”の編集が終わりました。“けやき便り”発行のメンバーの一人となって、新しい自分を発見したように思います」と書かれていますが、承諾を頂きました。

柳田さんの勧誘でシニア専修コースに入学され、私と同じ学科の齋藤秋生さんには、柳田さんから頼んで頂いて仲間になって頂きました。

齋藤さんは、編集後記で「“けやき便り”がシニア専修コースで学ぶ人たちとコミュニケーションをはかり、情報を共有して楽しい学園生活が送れば喜ばしいことです」と書かれています。この4人の仲間で新しい情報誌を「けやき便り」と名前を付けて活動を開始します。

柳田さんは第2代編集長の時、重い病を得られて死去、齋藤さんは2年終了時、自己の都合で退学、山本さんは研究生の時、自己都合で退学されました。

3. 編集クラブ員の確保

「けやき便り」編集クラブは船出をしましたが、当然大海の中で小舟が漂っているような状態なので、編集クラブに進んで入部をされる方はおられません。しかし、「平成21年に情報学科が新設されて人数も増え、コミュニケーションや情報交換の必要性を痛感していたおり、情報誌の刊行を知り、編集クラブの一員に加えさせていただくことになりました」と編集後記で述べられた上野栄三さん(情報学科2年)が入部されました。

まず、我々は、編集部員の確保と掲載記事の増加を目指しました。

山本さんが、神戸で行われた「史学1」の校外授業に参加して、AさんとKさんを勧誘してこられました。

私は、念願していた「パソコンクラブ」を翌23年4月に立ち上げました。クラブ名は「けやきデジカメクラブ」(現“けやきITを楽しむ会”)です。このクラブは、わりと評判が良かったのか、参加者が多かったようです。

そこで、「けやきデジカメクラブ」から、23年にはHさん、Iさん、Mさんを、24年にはNさんを勧誘しました。

また、国際文化学科では、年に1回バスを使

った校外学習を行っています、24 年に犬山市にある「リトルワールド」に行きました。Kさんは、「リトルワールド」名物の「わにの串焼き」と「ケニア産ビール」をご馳走する約束でクラブへ参加して頂きました。

上野さんは、わりと早く退部をされましたので、この時点でクラブ員は 11 名になり、まず一安心です。

4. 原稿

「けやき通信」にも、「原稿の投稿を」「原稿の投稿を」とよく書かれていましたが、まだまだ認識されていない「けやき便り」ですから、この情報誌に投稿される方は、少なかったです。

創刊当時の「けやき便り」を数号取り出して読むと、我々作の原稿が多かったようです。

また、ページにできた少しの空白を埋めるため「文芸欄」とイラストを掲載しています。

創刊号の「文芸欄」には、上野さんは「あじさい川柳会」に所属されていたようで、上野さんの川柳と何故か私が「知新」と名乗って短歌を披露しています。

腹時計 狂ったことが ありません 上野
幾星霜 再び通う 学び舎で

けやきの若葉も 我も輝く 知新

また、上野さんにはお得意のイラストをお願いしました。



◀「けやき便り」

第 1 号（創刊号）

5. ホームページ化

当時の総合生涯学習センターに「けやき便り」9号からホームページ化を提案しました。すると、総合生涯学習センターから、それでは創刊号から全号のホームページ化を行いましょう、との逆提案を受けます。

平成 25 年末までに全号のホームページ化が

完了しました。紙の「けやき便り」は、表紙だけはカラー印刷ですが、本文は白黒刷りになっています。ホームページになると全ページがカラーになり、素晴らしい「けやき便り」になります。有難かったです。「けやき便り」の格が一段上がったように思いました。

6. 退部

クラブを立上げ、これから作成していく情報誌の名前を考えている時、「けやき通信」編集部の方がシニア専修コースに在籍されており、新しい情報誌の名前は、是非とも「けやき通信」の名前を引き継いで、「けやき通信 12 号」にして欲しいと強い申し入れがありました。

これに対して、我々は創刊号の編集後記で「素晴らしい内容の“けやき通信”を 1 年 10 カ月という短期間の間に 11 号まで発行された先輩たちのご努力に対して、私たちは心からの敬意を表します。ただ、私たちは、先輩たちの偉業に心しながら、「新しい情報誌を発行しよう」という情熱から、情報誌の名前を“けやき便り”と名付けます」と回答しています。

勝手な私個人の考えですが、この 11 号という数字にこだわり、すくなくとも「けやき便り」11 号までは、その名前を「けやき通信」編集部に贈り、12 号から我々の情報誌と、私は思いました。12 号が発行された時、私は「けやき便り」編集クラブの退部を決めました。

7. お礼

平成 22 年 10 月 1 日に創刊号を発行して、令和元年 6 月に 20 号が発行されるようです。投稿者、編集者等の多くの方々のご努力により、毎号々々素晴らしい「けやき便り」が誕生しています。

私は、「けやき便り」創刊に携わった者として心からお礼を申し上げます。

平成 22 年 4 月から 10 月 1 日に創刊号を発行するまで、柳田さん、斎藤さん、山本さんという素晴らしい仲間とともに、何もわからないまま無我夢中で駆け抜けた 6 か月間を懐かしく思い、第 2 代編集長故柳田利康様にこの拙稿を捧げます。

『50歳からの大学案内 関西編』に 紹介された

文学歴史学科2年 櫻井秀也さん

「13人の大学活用法に学ぶ、これからの生きる楽しみ方」がサブタイトル。著者の花岡正樹さんが13人にインタビューして、まとめたもので、本学で学ぶ文学歴史学科の櫻井秀也さんが紹介されました。櫻井さんへのインタビュー部分の一部を紹介します。



尊敬できる人たちと知り合い、
語り合うことができる場に、
自分を連れていきたくった—
—櫻井さん

きっかけは、学食での出会い 3年ほど前にこの大学で公開講座が開講されていまして…学食で昼ごはんを食べていたら、相席された方と仲良くなり、シニア専修コースを教えてくださいましたのです。

仕事時代の興味が学ぶテーマに 磁石応用製品の開発や製造の仕事で、東南アジアのいくつかの国に赴任し、その経験から、世界にはさまざまな歴史や民俗、宗教をもつ人がいて、戦争、貧困、差別が根強く残っていることを知りました。いつかは詳しく学びたいなと漠然と思うようになっていったのです。

シニア生や教員が多彩なイベントを企画 ここに集まるみなさんは、勉強しようという気持ちを持っています。そういう方たちは知識も豊富だし、自分なりの考えを持っています。すごいなと思う人もいて、話しているだけで刺激になります。クラスメイトの一人にすごい読書家さんがいて、その方は『美術鑑賞とグルメの会』を月一回主催しています。希望者10名ぐらいとランチを食べて、美術鑑賞をして、わいわい楽しんでいます。

学科の後輩が主催した、泊りがけの旅行企画で、2年前は一泊で『出雲国巡りの旅』で島根県へ、昨年は二泊で『遠野物語の旅』で南三陸の被災地や遠野市などに行きました。『出雲風土記』などについて学ぶ授業にちなんだ場所を巡



2018年12月25日

初版発行／発行・発売ぴあ株式会社関西支社／
1500円＋税／四六版並製本 248ページ▲

っています。先生にも参加いただいて、現地で解説していただきました。夜には、みんなで酒を酌み交わして、これも楽しかったなあ。

シニアの学びの先にあるもの 研究生でなく他学科への再入学を決めたのは、クラスという単位で、新たな仲間と一緒に学ぶ魅力を感じたからです。3年分の新しい人間関係が生まれます。我々の年代にとって、新たな人間関係を作れる場は、とても大事です。自分にとって得ることのある、尊敬できる人たちと知り合える場があると、人生はとたんに豊かになります。……でも、学ぶだけでいいのかと自問自答もあります。今は、定年でリタイアしても、90歳、100歳まで生き続け、歳をとっても元気なんです。昔とは違う生き方ができるし、それが求められている。年寄りだからと引っ込むんじゃなく、発信していくような活動ができればいいなと思っています。大げさでなくていいんです。できることをできる範囲で……。

本学シニア専修コースのホームページに紹介されていたこの本には、大学のさまざまな教育プログラムや制度で学ぶシニア学生たちのリアルな姿が紹介されています。タイトルとサブタイトルも含め、本学シニア専修コースで学ぶ皆さんの考えておられることとピッタリではないでしょうか。なおインタビュー当時、櫻井さんは、文学歴史学科1年生でした。

「けやき便り」編集クラブ 河田

《ざっきちょうから》

誤魔化す

研究生 金森 扶美子

60歳からの話。高校時代に憧れていた演劇劇団のシニア部門に入った。

1年目のクラスは女性4人。1年がかりの発表会まで与えられた脚本は、清水邦夫作『楽屋——流れ去るものはやがて悲しき』というものだった。演劇が初めての4人に、こんなに難しいのをやらせるのか？ でも内容はとても面白く、素晴らしく、興味深いものだった。

登場人物は戦前の女優A、戦後脇役の女優B、現役女優C、若い新人女優D。そのCを私にやらせてくれるという。ああ、なんて素敵な役を与えられたんでしょう！

台本はチェーホフの『かもめ』『桜の園』『三人姉妹』とシェイクスピアの『マクベス夫人』を上手くミックスさせたものだった。

長い長いセリフにも酔いしれたように、自分なりに役に入り込み、「自己満足」でセリフを覚えることを楽しんだ。稽古はそれなりに順調に進んだ。そして初日を迎えた。

のっけから、女優Cのセリフ。「私は……かもめ。いいえ、そうじゃない。私は女優。あの人が来てる？ ふん、かまやしない。そうよ、あの人は……」と上々に滑り出した。

「考えながら、私の精神力が日増しに伸びていくのを感じるわ。——私の仕事で大切なものは、名声とか光栄とか、私が空想していたものじゃなくて、実は忍耐力だということがわかったの。得心がいったの」………（沈黙）………突然、次のセリフが出てこない。焦る。頭が真っ白になる。どうしよう、どうしよう………どうしても出てこない。………「すみません」………と言ってしまった。が、何秒か何分経ったのかわからないが、幸いにも次のセリフが出てきて、あとは終わりまでスムーズに運んだのだが、——私はすっかり信用を無くしてしまった

のだ。

終了後、観客の人が「初めてなのに良かった。感激しました」と慰めるようにお世辞を言ってくださったが、「あの失敗さえなかったら……ああ、口惜しい。あんなに練習したのに……」とひどく落ち込んでしまった。

「すみません、なんでもっての外。ああいう時は上手く誤魔化すんだよ」という声が聞こえてきた。演劇出演初めてで、真面目に完璧に台本どおり言わなくてははいけないと思い込んでいた。

「上手く誤魔化す？……へえ、誤魔化しているんだ……なあんだ、それを早く言っといてくれよ！」「そうなんだ。そんな時、上手く誤魔化すのか」と変に納得した。それからはセリフに詰まっても上手く誤魔化すようになった。そんな狡いことはすぐに覚える。

次に移った劇団では関西弁の芝居が多かった。台本を手に持つ間にはなんとか印を付けているので、イントネーションやアクセントを言えるのだが、関西生まれではないので台本なしの稽古に入ると、瞬く間に関西弁が離れていってしまう。これだけは誤魔化せない。関西弁に負けて演劇を断念した。

シャンソンにも挑戦する。歌詞を覚えることは年齢のせいが大変だ。でも1題目と2題目の歌詞がこんがらがっても、それはそれは見事に澄ました顔で焦りもせず誤魔化せた。

折しも、俳優の仲代達矢氏もラジオで「セリフを忘れることはある。その時は上手く誤魔化す」と言っていた。

そんな機会はもうないだろうが、あるわけもないのだが、あの『楽屋——』にリベンジしてみたいものだ。

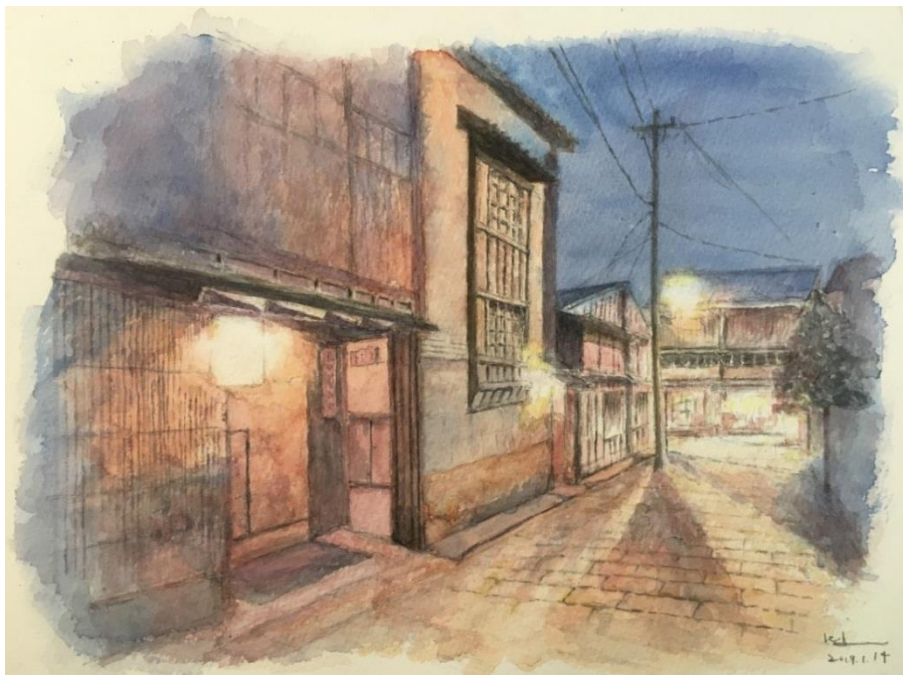


加ト: k.k.

読者の広場

「東山ひがし茶屋街」水彩画

文学歴史学科 3 年 山根 邦男



2 年前から月 1 回、梅田で受講している水彩画レッスンの練習作品のひとつ。金沢「東山ひがし茶屋街」の夕景を描いたものです。作品の感想をお聞きすると次回描く時の参考になるので、学内で見ていただくこともあります。“迷惑だなあ”と思った方もおられることでしょう。

美術鑑賞とグルメの会

国際文化学科 13 期 櫻井 秀也

国際文化学科 13 期生の仲間を中心に、2016 年 4 月からほぼ毎月続けている集まりがあります。それが「美術鑑賞とグルメの会」です。当時 2 年生だった T さんの企画で、毎回 10 人くらいが集まりレストランで食事、それから美術館の展示を鑑賞して、お茶を飲むというのが大体的なお決まりコースですが、さらにお酒を入れた反省会なしでは収まらないことも。



「美術鑑賞とグルメの会」
ミニアルバム



美術鑑賞は兵庫、大阪、京都の美術館、博物館を中心に、「国貞展」「棟方志功展」「ダリ展」「バベルの塔」「ベルギー奇想の系譜」さらに「UCC 六甲工場」「大阪造幣局」の見学まで、多岐にわたります。美術館などは園田学割を利用し、またグルメも 1,500 円位の手ごろな平日昼食料金でトルコ、スペイン、ベルギー、フランス、ロシア、中華料理にももちろん和食と広範囲にわたります。

まさに“美”で目を肥やし、“食”で舌鼓をうち、そして仲間同士の話がはずんで、充実の時間を満喫するという贅沢な半日を過ごすのでした。T さん、下見から企画、レストラン選びまで、いつもありがとうございます。

シニア専修コース クラブ紹介

けやきテニス同好会

研究生 眞鍋 幸裕

シニア専修コースでは唯一のスポーツクラブであり、今年度も新入6名が加わり、現在メンバーは22名(男子10名、女子12名)となりました。

人生は100年時代、今が人生で一番若い時です。テニスをして健康年齢を維持しましょう。

練習は毎週木曜日12時30分から14時30分まで、コートは園田学園のオムニコートとクレールコート各1面を使わせて頂いていましたが、今年度からメンバーが増えた為、3面を使わせて頂くことになりました。

練習はシニアらしく決して激しくはありません。テニスを楽しみながら、体力を維持し、学園生活をエンジョイすることを目的としています。

毎回練習後は、開花亭(学食)又はカウボーイで反省会を兼ねた懇親会を行っています。

皆様!! テニスで良い汗をかき、青春の気分になりませんか。参加をお待ちしています。入会を希望される方は、テニスができる格好で練習日にオムニコート(6号館裏)にお越し下さい。会費は入会金500円、年会費1000円参加費300円(参加の都度)です。

園田学園は伊達公子さんやオリンピック選手を出したテニス界の名門校であり、このような名門校のコートでテニス出来るのは幸せです。

代表: 中村米三郎(研究生)

090-6735-8726

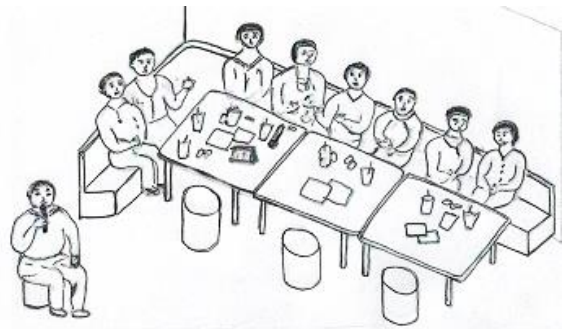


けやきカラオケクラブ

目指せ1000曲

研究生 木下 俊造

設立6年を迎える「けやきカラオケクラブ」は、当初より歌唱中もおしゃべり自由、「4分間のスター」気分を満喫できても、特に拍手は期待せず、周りの人は聴くより聞こえているという雰囲気、出はいい自由、出欠自由とお荷物ゼロで、月・水曜日をメインに活動しています。



例会イメージ

今年から例会会場が、大学の近くから阪急塚口駅近くになり、若干の戸惑いもありますが、4月の第1回例会では、早速15曲の新しい曲を歌っていただき、歌唱曲目数4桁へ順調なスタートをきりました。また8月の最終月曜日には、恒例の新入部員歓迎会も予定していますので、皆様のご都合に合わせて来ていただければありがたいです。

前期例会予定

6月26日(水)

7月8日(月)

8月26日(月)

カラオケは閉所空間での活動のため、なかなか入りづらいイメージがあっても、最初は躊躇される方もおられるでしょうが、お一人でもお気軽にのぞいていただければ、「けやき便り」第19号に紹介していただいたように、こんな世界があったのだ! と思っていただけるはずです。

部員一同「こんな世界」へのお越しをお待ちしていますので、学内掲示板にご注目を!

けやき遊歩クラブ

研究生 中村米三郎

1. 活動方針

太陽、風、雲、花、緑、山、川、文化遺産などを友に「遊び心」を持って学びながら楽しく歩き、会員同士の親睦を図り、もって、シニアの活性化に寄与します。



2. 遊歩クラブバッヂ

例会活動中は、原則として着用して頂きます。

3. 平成 30 年度の活動状況 (会員数 117 名)

例会回数 10 回、参加者合計 416 名、平均参加者数 41 名

4. 令和元年度の活動予定 (会員数 119 名)

月	活 動 予 定
5	総会&新入会員歓迎会 近江八幡 八幡堀と伝統的建造物
6	長岡京史跡探訪サントリービール見学
7	例会は休み
8	納涼会 神戸でバーベキュー
9	J Rで行く美山かやぶきの里
10	学園バス 福井(一乗谷、恐竜博物館) 宝塚 黒豆と芋掘り&ダリア園見学 けやき祭に参加
11	紅葉 東福寺、泉涌寺
12	忘年会ホテルでバイキング&日銀見学
1	学園バス 初詣 淡路島 (伊弉諾神宮)
2	観梅 伏見1 城南宮、月桂冠
3	伏見2 伏見稲荷大社、伏見桃山城
4	花見 背割り堤桜、石清水八幡宮



福井一乗谷 戦国時代にタイムスリップ?

けやき I T を楽しむ会

研究生 中村米三郎

次のようなコースを設けて、皆さんと一緒に I T を楽しみたいと考えています。



会員は4月26日現在、30名の方が入会されています。

1. 定例勉強会

(1) V B A コース

入門コースと応用コースをわけることなく、入門から順次応用へと勉強していきます。

来年から小学生もプログラムが必修になりますが、私たちもロジックを伴うプログラミングの作成は必要と思っています。

(2) Python コース

Python の基礎とゲーム開発ソフト Pygame の勉強を行います。目標は、秋のけやき祭で使うゲームの開発を目指しています。

(3) スマホ・タブレット勉強会

① この勉強会の主たる目的は、皆さんと一緒に「スマホ・タブレット」の知識を増やすための場所と考えています。

② スマホ・SNS のセキュリティを勉強します。

③ スマホ関係の最新ニュースを皆さんと一緒に理解したいと考えています。

2. 夏季臨時勉強会

7 月頃、シニア専修コース受講生を対象にした臨時勉強会「パソコン概論 2」を行う予定です。

3. 10 月のけやき祭に参加する予定です。



IT を楽しむ会勉強風景

軽音楽同好会

バンド名「THE GAKU-YOU」

研究生 木村 勲

クラブ結成当時は、フォークソングやアメリカンポップスを中心に演奏してきましたが、昨年より老人介護施設でボランティア演奏を行い、歌謡曲（演歌含む）や唱歌までレパートリーが広がりました。

<今年の演奏活動予定>

●学内

- ① 入学式
- ② 練習成果発表会を年 2 回（6 月、12 月）
- ③ 七夕まつり（7 月）
- ④ 学園祭（けやき祭 10 月）

●学外

- ① 老人介護施設でボランティア演奏
- ② 暑気払いライブ（8 月）

※ピッコロシアター中ホールで開催予定。

今後は、尼崎市等のイベントにも積極的に参加し、一層のスキルアップを目指し、社会貢献の一助となるよう計画しています。

<練習>

場所：第一音楽室

時間：毎週金曜日午後 1 時～4 時 10 分

練習風景や老人介護施設演奏会での見学は大歓迎です。皆様のご来場お待ちしております。

毎月の活動予定は社会連携推進センター前

掲示板にてポスター告知で案内しております。

<メンバー>

リードギター（1 名）、サイドギター（1 名）、
ベースギター（1 名）、ドラム（1 名）、
ボーカル（1 名）、コーラス（2 名）の計 7 名

<募集>

ミキシングが出来る方、またはご興味のある方を募集しております

けやき朗読倶楽部

研究生 金森 扶美子

「朗読」って何の意味があるの？ 本を読むんやったら一人で静かに読んだらいいやん（黙読）。それをなんでまた声をだして読まないのかんの？ ほんまやな……そういわれるとそうやな～……。

小学生の時、国語の時間、教科書の読みをあてられるということがあったやん？ あの頃は内気な性格やって、自分から手をあげないけど内心メチャあてられるのを期待してて、先生と目が合っあてられると凄く嬉しかった。なんでやろ～？ 声をだして読むのがメチャ快感やったなあ。

だから、なにかあるんですよ、声に出して本を読むということの魅力が……。だってひとりで声だして読んでも結構楽しいもんです。セリフを使い分けたり、泣く、笑う、怒る、喜ぶ、暗い話、明るい話……ひとり芝居？ 演技力が必要？ 言葉の響き、イメージ、感情を楽しんで体感するんです。

そう、やっぱり読書と朗読は別物です。

朗読って地味な趣味なんです。どっちかっていうと「自己満足」的趣味かも。でも滑舌や発音が気になる年齢ですよ。音読すると脳が活性化するんだって！

「けやき朗読倶楽部」では、発表の場の一大イベントは 10 月の「けやき祭」。部員みなで出演するので主に朗読劇。そして年 2 回の「ミニ発表会」はひとりひとりの個性で作品を選んでソロで発表しています。

楽しんで読む、そして味わいながら自己表現力のアップを図りましょう！ みんなでやるともっと楽しいと思うんです。

*原則として、

第 2、第 4・水曜日 2 号館 232 教室
で活動しています。興味のある方は
見学に来て下さい。

けやき多彩な趣味の会

研究生 今西 伸子

本年度より、新しく立ち上げたクラブです。手先を動かして細かい作業に集中することは脳の活性化にもつながり、「無」になって没頭できる時間は、心が和みます。また独自のオリジナル作品を作り出すことにより、創造力アップにもなります。



本年度の活動予定です

5月	花の切り絵・仏像の切り絵
6月	花文字の練習 基本の絵柄(鶴・亀)
7月	花文字の練習 基本の絵柄(松・竹)
8月	バルーンアート
9月	バルーンアート
10月	けやき祭に体験コーナーで参加
11月	花文字の練習(稲穂・菊) オカリナの練習
12月	花文字の練習(梅・桜・ハート) オカリナの練習
1月	花文字の練習(尾長鳥) オカリナの練習
2月	花文字の練習(オリジナル文字)作成

興味のある方は、どなたでも、どの月からでもご自由に参加して下さい。日時・場所はクラブ掲示板で、お知らせします。



「けやき便り」編集クラブ

文学歴史学科2年 櫻井 秀也

新入生の皆さま、そして全てのシニア専修コースの学生の皆さま、「けやき便り」を手にとってご覧いただいているでしょうか？

「けやき便り」は平成22年の10月に創刊し、今号で20号を数えることになりました。

「けやき便り」はクラスや同窓会、学内行事、クラブ活動の様子、皆さまの趣味のご披露、そして皆さまが日ごろ感じ、考えておられることなどについて、自由に投稿していただく小さな情報誌です。

こんなこと、と思わずに、作文、写真、川柳、旅行記、徒然なるままに感じられたことをどんどんお寄せください。「けやき便り」が皆さまにとって、学園生活を楽しみ、交流の輪を広げる一助になればと願っております。

編集クラブは、企画、原稿募集、編集・校正、印刷、製本といった作業を全員(現在17名)で行っています。毎月ほぼ1回開催される編集会議では、堅苦しさゼロ、冗談を交えながら、元気の良い意見が飛びかい、終わると「たこ焼き屋」へ直行して乾杯！春と秋の年2回の発刊日の後は、打ち上げで、大カンパニー！

お話したい方、たこ焼きが好きな方、文章が苦手な方でも、ぜひ一度編集クラブを覗いてください。



編集会議



打ち上げだー



社会連携推進センター

生涯学習ユニットからのお知らせ



社会貢献と地域連携活動の実現と共同研究支援のための新組織として「社会連携推進センター」となり2年目を迎えました。

年号も「令和」に変わり、新しい時代の幕開けです！生涯学習ユニットでは、毎年新しい取り組みを目指しているところですが、今年度は本学生涯学習40周年記念事業を開催いたします。広く一般の方々にもご参加いただけるような内容で現在準備を進めています。詳細については残念ながら今号への掲載には間に合いませんでしたが、決定次第、学内掲示板の他、HP等でご案内します。どうぞご期待ください！

2019年度の「生涯学習ユニット」スタッフも、次のメンバーでよろしくお願ひ申し上げます。

所長・松葉 真(まつば まこと)

*大学人間健康学部食物栄養学科准教授
大野(課長)、増田、與山、南部

❁ 公開講座「人間を考える」講師募集！

シニア専修コース受講生に講座講師をご担当いただく取り組みは、今回で6度目になります。自薦他薦問いません。センターまで！

公開講座「人間を考える」

テーマ：人生を楽しむ

講座日：11月16日(土) 2時限目

担当時間数：30～40分

*薄謝ですが講師料をお支払いします。

❁ 学園祭「けやき祭」に参加しませんか

♪♪今年も私たちと一緒に参加しましょう！♪

開催日：10月19日(土)、20日(日)

*昨年度参加の記録画像 ↓



❁ そのほか

○夏休み子ども講座

下記の小学生向け講座を、7月下旬～8月初旬頃に計画しています。保護者向け、同伴OKの講座もあります。詳細は後日。申込み開始(HP)は7月9日(火)を予定しています。

英語・作文・ロボットプログラミング・
お母さんのための子育て講座

○看板講座「人間を考える」40周年特別企画

“単独申込み受付”(各回開講日の2週間前まで、
受講料1,600円/回)

⑦10月12日(土) 瀬尾佐和子先生

「人生は楽しむ為にあるー快楽生活ー」

⑫2月1日(土) 吉村綱先生

「人生の味わい？ 幸せ？そして楽しみ？
それぞれの基盤」

☺ いつでもお気軽に！ ♪♪♪♪♪

社会連携推進センターまでお越しください ☺

『けやき便り』への投稿について

編・集・後・記

1. 「けやき便り」では皆さんからの自由投稿をお待ちしています。題材は、クラス・クラブの活動の紹介、趣味（旅行、俳句・短歌・川柳・絵・書・写真・イラストなど）の紹介、何気なく感じたことや思ったことなどのエッセイなど何でも結構ですので、どしどしお寄せください。

2. 原稿について

原稿の長さは自由ですが、目安として、0.5～2 ページ、1 ページあたりは写真・イラストを含めて本文 1400 字～1600 字程度です。

① 手書きや印刷物で頂く場合

様式は問いません。学習センターの事務所の『けやき便り』編集クラブの連絡 Box に入れてください。

② パソコンを使用される場合

下記アドレス宛にファイルをお送りください。

櫻井秀也 hideyasakurai94@gmail.com

③ 写真掲載について

『けやき便り』はウェブ上にも掲載され、カラーで見ることができます。写真付きで投稿される方は、肖像権などの問題が生じないように事前に撮られる方の了解を得ていただくようお願いします。

3. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集クラブが、掲載することを不可と判断したもの

4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集クラブで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため

5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。

6. 投稿される方はお名前を書いていたいただきますようお願いいたします。無記名・匿名・ペンネーム等をご遠慮ください。

「編集クラブ」に入部しましたきっかけは、前に通ったシニアカレッジの卒業文集に私の雑文を提出し、編集に関わったのが楽しかったからです。

入部を決めて「けやき便り」に投稿された方々の立派な文章を楽しく読ませていただきましたところ、突如文学的才能ゼロの私に編集後記を、と言われて本当に驚きました。

私の人生においては国内外の旅が大きな柱になっています。今まで方々を旅してきました。ツアーあるいはフリースタイルで 30 年、振り返れば苦あり楽あり全て私にとって人生の糧となっています。いつの日かそれらを読者の方にご披露できましたらと思っております。

情報 1 年 阪田 啓子

皆様からいただいた「けやき便り」の原稿を、とても楽しみに読ませていただいています。

校正作業は、グーグルドキュメントに校正案を書き込み、瞬時に共有。どこからでも確認できます。製本作業も、格段に進歩。両面印刷し、1 冊分ずつ刷り上がるので、ページを確かめて、ホッチキスで止めると完成です。製本がとても楽になっています。

編集会議でいろんな考えが交わされるにぎやかな様子は、昔のまま。それぞれが得意分野で力を合わせ、今回もこの第 20 号が完成しました。笑いの絶えない楽しい編集クラブです。

皆様の投稿、入部、編集会議への体験参加を、心よりお待ちしております。

研究生 宮本 裕江

十年一昔といいますが、「けやき便り」も第 20 号を迎えることができ、感慨深いものがあります。周りのクラスメイト、クラブメイトにセンター職員の皆様方のご協力のおかげで、近年は発刊体制も整い、多くの投稿をいただけるようになり感謝しています。これからもより進化した「けやき便り」が続きますよう、ご協力応援よろしく願いいたします。

研究生 木下 俊造